

女性従業員を取り巻く健康や就業環境の課題解決に向け、丸の内エリア企業 22 社が参加 「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」を開催

三菱地所株式会社は、株式会社ファムメディコと共催で、神奈川県立保健福祉大学の協力のもと、国際女性デーを前に、働く女性たちの課題に取り組む企業と共創する産学医連携プロジェクト「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」を3月5日（水）に開催しました。

イベント実施の様子（ダイジェスト動画）はこちら：<https://prtimes.jp/tv/detail/3052>

（3月7日（金）13時に公開予定）



▲イベント開催時の様子

三菱地所では、2014年より「まるのうち保健室^{※1}」プロジェクトにて、「女性^{※2}の働きやすい文化醸成」をテーマに、様々な活動を重ねてまいりました。

「働く女性 健康スコア」^{※3}は、神奈川県立保健福祉大学の協力のもと、疫学調査をベースとしたオリジナルアンケート（2022年より累計 34社 約 12,000人を超える働く男女が回答）をもとに、女性特有の健康課題や就業環境などを“見える化”するツールとして開発しました。産学医が連携し、企業ごとの課題抽出ツールとしても活用し、調査結果をもとに参画企業と課題解決に向けたワーキングを重ね、企業の次なるウェルネスアクションを促す機会創出として活動を推進してきました。

女性の不調による仕事への影響はどのくらいの人にある？

月経やPMS、更年期症状などの女性特有の症状によって仕事に影響がある人が88%という結果が出ています。



▲「働く女性 健康スコア」調査結果例

今回は、**職場での従業員の健康課題をどのようにサポート・解決していくべきかにフォーカスをあて、「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」を開催いたしました。**働く女性を取り巻く健康課題を起点としつつ、誰も起こりうる不調時でも活用できる、円滑な業務推進に必要なヘルスコミュニケーション術や、健康に関する知識の共有等を、神奈川県立保健福祉大学の吉田 穂波先生らにレクチャーいただきました。また、今後の活動や課題解決へ生かしていただくための参加企業同士のワークショップも展開しました。

さらに、同日午前中には、三菱地所人事部主催として役職者を対象とした「国際女性デー特別企画講演会」を開催。弊社社員も回答した「働く女性 健康スコア」の結果講評とともに、これからのDE&I（ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン）の目指すビジョンや、ジェンダーの垣根を越え、誰もが働きやすい環境をどのように作り続けるかを、三菱地所のグループ社員と共に考えました。

今後も、丸の内では、日本を代表するビジネスセンターとして、働く女性たちが変化するライフステージにおいても選択肢を広げることができるよう、また、誰もが働きやすい環境実現や文化醸成に向け、弊社だけでなく、ご賛同いただく企業とともに取り組むことで、ウェルビーイングな街づくりを推進していきます。

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

三菱地所プロパティマネジメント株式会社 丸の内 PR 事務局（平日 10:00～18:00）

TEL：03-4323-0100 / E-mail：marunouchi@ozma.co.jp

<本件に関する一般の方のお問い合わせ先>

丸の内コールセンター TEL：03-5218-5100（11:00～21:00）

※但し、日曜・祝日は 20:00 まで（連休の場合は最終日のみ 20:00 まで）

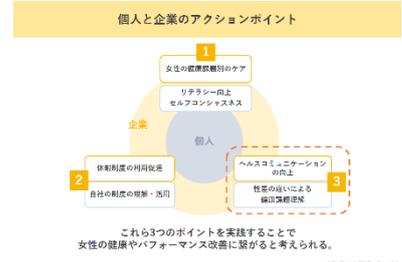
「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」内容

神奈川県立保健福祉大学の吉田 穂波先生らと共に、「働く女性 健康スコア」調査結果や企業が働きやすい環境実現にむけた、目指すべきヘルスコミュニケーションについての紹介を行いました。後半は、それらをソリューションとして、企業にて活用し機能させるにはどのような手法や視点を持つべきかについて、参加企業担当者間にて意見を交わすワークショップを行いました。

● これまでのデータから見てきた、職場ヘルスコミュニケーションの重要性

昨年度（2024年3月発表）の働く女性 健康スコアから見た課題に対し、参画企業とともに、女性の健康課題の解決やパフォーマンス改善にむけた企業のアクションポイントを3つ導き出しました。

その中でも「職場のヘルスコミュニケーション」が重要であり、女性の健康課題解決のみならず、誰しにも起こりうる不調時において、より日常から健康に関する知識を高め、相互理解が大切であるということが示唆されました。



「働く女性 健康スコア」健康課題に関するトピック（一部）※昨年度（2024年3月発表）n=3,900回答

[健康課題] 40代以上では3人に1人が「更年期症状」「月経・PMS」の両症状で仕事に影響あり

[メンタルヘルス] 「更年期症状」で9割以上、「PMS」で約6割が精神的にも症状あり

[女性のパフォーマンスを高める因子] 月経痛やPMS、更年期症状による仕事への影響を軽減させる要素として、職場のヘルスコミュニケーションが有効である

「企業が取り組むべき3つのキーワード」（産学医ウェルネスワーキングより）

アクションポイント1：女性の健康課題別のケア ライフステージ別の体の変化や対処法の相互理解

アクションポイント2：休暇制度利用の促進 休暇制度が必要な時に柔軟に使われるにはなにができるか？

アクションポイント3：職場のヘルスコミュニケーション 心理的安全性を担保し話することができるか？

● 最新データから明らかになった職場のヘルスコミュニケーションの実態

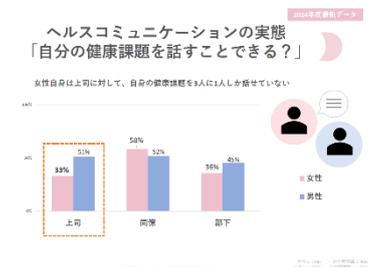
過去の調査においても、男性社員の約9割が「女性の健康についての声掛け」について悩んでいると回答しており、一方で、パフォーマンスが高い傾向にある女性社員においては、「上司・同僚は頼りになる」「職場の雰囲気は友好的」と回答していました。

本年度（2025年3月発表）のヘルスコミュニケーションに関する調査では、女性自身は上司に対して、自身の健康課題を3人に1人しか話せていないと回答しています。

・「上司に、自身の健康課題を話すことができる」女性33% 男性51%

・「部下に、自身の健康課題を話すことができる」女性36% 男性45%という結果となりました。

以上より職場でのヘルスコミュニケーションに課題を感じている方が多いということが推察されました。



● 円滑に業務を推進するための5つの声掛け実践ポイント

普段から、気づける環境・話しやすい環境の構築を目指すことが有効であり、下記5つの実践ポイントが紹介されました。その上で、会話を通じて本人の心理的安全性を確保することや、必要に応じて誰かに相談や状況を共有できるように促すこと、深刻な場合には、医療機関の受診を促すことが重要です。

声掛けポイント1：誰にでもなりうるという意識 自分事として考えてみましょう

声掛けポイント2：各症状への理解 女性特有の疾患を学び、業務にどんな支障が起こりうるかも理解しておきましょう

声掛けポイント3：話やすい関係づくり チームメンバーと日ごろからオープンな関係が困ったときに助かります

声掛けポイント4：不調への気づかい 不調を気遣う一言を。共感の言葉は本人の心を開きやすくします

声掛けポイント5：具体的なサポートの開示 役立ちたいという気持ちで、自社制度や支援策も提案してみましょう

【参加者のコメント（建設、サービス、環境関連、コンサルティング関連/30代/女性）】

今回は、各症状に対してどう対応していくかの深掘りができたので非常に参考になった。また、心理的安全性を担保したまま、どのように症状や対応に配慮していくのかを学ぶことで、企業としての姿勢を考えることにも繋がった。今後は、具体的な対策や体験会などがあれば、積極的に参加したい。

「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」開催概要

名称：まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング

日時：2025年3月5日（水）

13：30～15：30「まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング」

会場：新丸ビルコンファレンススクエア（東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 9 階）

共催：三菱地所株式会社、株式会社ファムメディコ

登壇者：神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科教授 吉田穂波 先生

神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科講師 黒河昭雄 先生

三菱地所株式会社 エリアマネジメント企画部 まるのうち保健室プロデューサー 井上友美

内容：まるのうち保健室 産学医ウェルネスワーキング

- ・ロールプレイから見たヘルスコミュニケーション Tips の紹介
- ・ヘルスコミュニケーション活性化のためのディスカッション等

URL：<https://shokumaru.jp/wcm/24821/>

「国際女性デー特別企画講演会」開催概要

名称：国際女性デー特別企画講演会

日時：2025年3月5日（水）

10：00～11：30 「国際女性デー特別企画講演会」

会場：新丸ビルコンファレンススクエア（東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 9 階）

主催：三菱地所株式会社

【主催者のコメント（三菱地所株式会社 人事部 部長 岡安正雄）】

女性の健康課題の経済損失は 3.4 兆円と試算されるように、企業にとっては取り組まなければいけない大きな課題であると考えています。まずは社内の管理職層を通じて、DE&I の考え方を浸透させ、意識改革を進めます。その結果、大丸有エリアに勤務している多くの女性をはじめ、すべての社員がより働きやすい環境を実現できるよう、企業や経営者に対して、少しでも同じ意識を持ってアクションを行っていただけるように、部署単位から貢献していきたいです。

■注釈

※1「まるのうち保健室」

<<https://shokumaru.jp/wcm/about/>>

働く女性が自分らしくいられるための選択肢を増やせるように、これからのライフイベント、食、働き方、余暇の過ごし方、人生の計画など、未来の姿に寄り添うプロジェクト「Will Conscious Marunouchi」の活動の一つが「まるのうち保健室」です。スタートして今年で 11 年目、「まるのうち保健室」は働く女性の伴奏者として、個人・コミュニティ・社会へのアプローチを行い、ソリューションを提供し続けています。

※2 生物学上の女性を指す。

※3 「働く女性健康スコア 2024」

<<https://shokumaru.jp/wcm/project/score/>>



○丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」



丸の内
Re デザイン

三菱地所は、2020 年以降の丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ[※]」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース：https://www.mec.co.jp/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf